

はじめに



「基礎・基本」定着度調査から鹿児島学習定着度調査へ

本県では、平成16年度から9年間にわたって「基礎・基本」定着度調査を実施し、児童生徒の学力向上に努めてまいりました。そして、平成24年度の調査では、実施初年度と同一問題を一部出題した結果、その9割以上の問題で通過率が向上し、各学校で基礎・基本の徹底に取り組んできた成果を実感することができました。

一方、平成19年度に始まった全国学力・学習状況調査では、小学校はA問題は比較的良好なもの、B問題には課題があり、また中学校はA・B問題ともに課題がある状況があり、その傾向が継続しています。

そこで、平成25年度は、これまでの調査の完全リニューアルを図ることにしました。

《調査名称の変更》 「基礎・基本」定着度調査 → 鹿児島学習定着度調査へ

調査内容も、問題の質を高め、生活の中の事象との関連、資料等を分析、活用する思考・表現に関する問題に改善しています。各教科とも、このような問題を3割程度盛り込むとともに、児童生徒の学習状況を把握し、指導に生かすため、質問紙による意識調査を併せて実施したところです。

実施結果をまとめた本報告書では、調査結果から「基礎・基本」と「思考・表現」問題の通過率及び度数分布等をそれぞれ別々に示してあります。そのため、それぞれの教科でより細やかな分析ができ、指導方法改善に生かせる学力向上策をこれまで以上に具体的に設定することができます。また、問題を活用した具体的な指導事例等を盛り込んでありますので、各学校における研修会等でも積極的に活用して頂きたいと考えています。

新しい知識・情報・技術が飛躍的に重要性を増す現代社会で生きていくためには、基礎的・基本的な知識・技能の習得だけでなく、これらを活用してよりよく問題を解決するための思考力・判断力・表現力が更に必要になります。一方、先生方からは、これらの力を付けるために児童生徒が主体的に課題に向き合い、解決方法を考え判断し、その思考過程を含めて考え方を表現する一連の学習の必要性は十分理解しながらも、そのことを授業レベルでの改善に結び付けにくいという声も聞こえています。「授業の中で思考や判断をどのように見取っていけばよいのか分からない」「最終的に表現したものを評価する問題の作成や改善が必要である」という、先生方の悩みや願いも解決していくため、県教育委員会におきましては、平成26年度も各学校の学力向上の取組を支援する施策を推進していきたいと考えています。

今後、本調査報告が各地区、市町村及び小・中学校等のあらゆる場において、特に小中連携による系統的な指導を取り込んだ授業改善や学力向上策に十分活用され、児童生徒の確かな学力として還元されていきますよう、よろしく願いいたします。

最後に、これまでの調査作成・実施に当たり、ご協力いただいたすべての皆様にご心より感謝申し上げます。

